“WE”のエンジョイライフ
enjoy.02： フランスの押し花作家を訪ねて

火焔土器

2001年イギリスのケンブリッジ大学植物園で私達の指導者であり、世界を代表する押し花作家、杉野宣雄氏の個展と同時にロンドン市内で「世界押し花芸術展」が開催されました。世界各国から押し花作家が集まるビッグイベントでした。今回はこの会場で出会ったフランスのハイムさんを2年後に訪ねた時のことを書いてみたいと思います。

メールでコンタクトをとりハイムさんの住む街の駅に着くとご主人が“マダ～ムコバヤシ？”と出迎えて下さいました。到着した夜は、ビッグホームパーティがあるということでご招待を受けました。テーブルには素敵なお花が飾られ、キャンドルに灯が灯り、美味しいデナーを頂きながら片言の英語でも楽しい一時を過ごすことができました。

翌日は、ハイムさんとたっぷり押し花談義に花が咲きました。昔は電話帳や新聞紙で植物を押していましたが、それだけでは色は鮮やかに出ません。日本では水分を一気に抜きとる特別な押し花マットが一人の化学者（杉野宣雄氏の父）により開発され、そこに挟んでおけば2～3日で、原色のまま美しく乾燥することが出来るようになりました。そこで、フランスではどのようにして押し花を作っているのか尋ねると、乾燥マットは自分で作っているとのと。まず、赤ちゃんのパンパスがヒントであり、その材料を企業と交渉しロールのまま仕

小林美和子
「フラワーサロンWE」主宰
長岡市表町在住
押し花やフラワーアレンジメントの他、花のクラフトとして、ネイチャープリント、レカンフラワー教室主宰。

入れ活用しているとのことでした。確かに赤ちゃんのパンパスはしっかり水分を吸収、しかも表面はサラサラ。乾燥する押し花にはとても良い条件です。

また、私達は押し花マットの再乾燥を電子レンジや布団乾燥機でやり、何回でも使いますが、ここで更に驚いたことは、ハイムさんは壊れた冷蔵庫を改良し、冷蔵庫についているファンと熱風で押し花マットの再乾燥をしているのだそうです。実際に見せていただきましたが、なるほどメザラを利用しそこにマットを並べ、うまく再乾燥できるアイデアでした。何もかも揃っている日本ではここまでのアイデアはなかなか出てきません。脱帽でした。ハイムさんのアトリエでは色分けされた押し花がきちんと整理され、創作しやすい環境が整っていました。ハイムさんの押し花の美しさとパッチワーク模様の美しさはフランスのリヨンで開かれた世界パッチワーク展でも高く評価され、国内外で活躍されている素敵な押し花アーティストでした。

アトリエのハイムさん(上)と作品